

Slide 1

皆さんこんにちは。私はジョシュア・ボールドウィンと申します。このキャップストーリーは「『子供を持つ事』について：アメリカ人・日本人大学生の意見比較」というタイトルです。

Slide 2

これはこのプレゼンテーションの概要で、この順序で発表したいと思います。

Slide 3

では、私がなぜこの研究テーマにしたかということ、日本に宣教師として住んでいた時、日本人の家族と接して様々な家庭を見る事が出来ました。いい家庭ばかりでしたので、帰国してから短大に入りアメリカと日本の出生率が減少している事を知って驚きました。ですからこの研究では大学生が子供を持つ事についてどのような意見をもっているかを調査することで、出生率の減少はどのように起きているのかをもっと追及したいと思いました。

Slide 4

これが私の研究質問です。最初の質問は、「大学生は子供を持つ事についてどのような意見を持っているのか」。そして次の質問は「日米の大学生の子供を持つ事についての意見には何がどのように影響しているのか」です。

Slide 5

まず研究の背景として日本・アメリカの出生率の比較、出生率に影響を及ぼしている要因、家庭を作る決意に政府が及ぼしている影響の順にお話していきます。

Slide 6

これは、日本とアメリカの出生率の比較です。出生率というのは国の人口の 1000 人に対する出生数の割合の事です。このチャートによると日本では 1973 年の 19,600 人から出生率が徐々に減少していっているのが解ります。そしてアメリカでも 60 年代から出生率減少が起こっています。

#### Slide 7

合計特殊出生率、つまり1人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す数値をみると国が自分の人口を維持するには2.1の合計特殊出生率が必要ですが、2008年にアメリカは2.1より下回り、日本もこの10年間2.1以下を保っています。

では、次に出生率に影響を及ぼしている要因について見てみましょう。

#### Slide 8

出生率に影響を及ぼしている要因には色々ありますが、最初に女性の雇用についてみたいと思います。日本では「M」形の傾向で、日本人女性は子供を産む前の雇用率は高いですが、子育ての間雇用率が減少し、子供が学校に入ると雇用率がまた上がります。これをチャートで表すとこの「M」の形になるので、そう呼ばれています。この傾向をアメリカと比較すると日本での問題がもっと明らかになります。幼稚園児を持って働いている母親は日本では22%で、アメリカでは60%です。そして子供が青年になると双方の国は52%と59%と大体同じ率になります。二回目のピークは「最初のピークより数字的に低いだけでなく、仕事のクオリティーも悪くなる」ようです。例えば、たいていの主婦が、パートタイマーで前より低い給料で働いているというのが実情です。

#### Slide 9

日本では社会的にはまだ男は仕事をし、女は子供を産んだら子育てに専念するという認識が強いようです。この認識が女性の結婚年齢を30代後半まで上がらせている一つの大きい要因です。また、結婚をした女性はある一定期間、子供を産まない方がいいという認識もあります。ですから、妊娠すると、罪悪感を感じ、仕事をやめるケースが多いです。

#### Slide 10

次に出生率に影響を及ぼしている要因としてあげられるのはカップルの減少です。夫婦が持っている子供の人数は減っているのは一つの問題に過ぎません。それ以外に結婚をしないか、高年齢で結婚する日本人が増加していることも減少の要因です。そして、高年齢で結婚し出産するのは難しくなります。また減少の理由には結婚を前提におつきあいをしない人も多くなっていることもいえます。恋人がいる人は1990年から40%以下でしたが、2010年に男性の割合が25%、女性の割合が35%まで減少しました。しかし、若い日本人の中には愛をもって結婚し、子供を持つと言う人も大勢います。

#### Slide 11

また政府の法案が家庭を持つかどうかをきめるのに影響していることもわかりました。日本政府は 2009 年に、親に子供が 15 歳になるまで、毎年 33 万円の補助金を提供するという提案をしました。子供を持つ事をもっと魅力的なものと思わせるため、公立保育園の増加、授業料免除なども提案しました。しかし、補助金はある一部の家庭しか助ける事が出来ません。完全な問題解決方法にはなりません。一方アメリカにはこういう補助金がなくて、子供を持つ人に税額控除しかもらう事が出来ません。しかし、アメリカの政府は国民に『欲しくない』子供をもたせる事が出来ませんが、『欲しい』子供が持てるように手助けは出来るはずです。17 歳以下の子供を持つ親にはもっと大きい税額控除をあげて、社会保障にお金を支払う必要を免除するという案はこれから子供を持つ夫婦には影響があると思われれます。

#### Slide 12

それではここで私が行った研究の結果について話します。この研究には、24 名の日本人と 23 名のアメリカ人、合計 47 名が参加しました。うち、日本人の女性が 15 名、男性が 9 名でした。アメリカ人の大学生は女性が 9 名、男性が 14 名でした。アンケート調査はオンラインで行いました。

#### Slide 13

これが研究質問 1 でした。

#### Slide 14

回答者に自分の理想的な家庭はどんな家庭か、と質問をしとところ、アメリカ人も日本人も理想的な家庭としては「両親 2 人が働いている家庭」と答えました。

#### Slide 15

次に、10 代から 20 代の半ばで若くして親になることを良く思っている日本人は 20%に過ぎず、アメリカ人も約 40%と低い数値がでました。

#### Slide 16

また若い親に対して意見をさらに調査してみると、アメリカ人と日本人共約 25%は若い親に対して「あまりよくおもっていない」と答えがありましたが、「全く良く思っていない」回答者はアメリカ人のみでした。

#### Slide 17

次に子供を持ちたがっているかどうかと言う質問をしました。その結果として、日本人の89%とアメリカ人の70%は子供を欲しがっていて、22%のアメリカ人は子供はもたないだろうと答えました。そしてアメリカ人の少数の回答者は「子供は絶対欲しくない」と答えました。

#### Slide 18

最後に大学生の現在何を優先したいかという問いに対し大半のアメリカ人も日本人も「学校、仕事、結婚、子供を持つ事」の順で大事だと答えました。

#### Slide 19

卒業後の優先順位としては日本人もアメリカ人も共に仕事を最優先とし、子供を持つ事を最下位として選びました。面白い事に、アメリカ人は昇進を2位にした回答者が多かったのに対し、日本人は仕事の次に結婚を優先していることが分かりました。

#### Slide 20

ここで研究質問1の結果をまとめます。日本には昔から社会から「男は仕事をし、女は子育てに専念する」という考えはあるが、両国の学生は「両親2人が働いている家庭」を理想的な家庭として考えています。そして日本人は10代から20代で親になることに対してはあまり良く思っていない人が多いのに対しアメリカはその逆の結果が出た事には驚きました。日本では出生率の減少が起きているにもかかわらず、子供は欲しくないと答えた日本人は1人もいませんでした。また両国の回答者は家族を持つには仕事が必要だから仕事か学校を最優先にし、子供を持つ事を最下位にしている事は興味深いと思いました。

#### Slide 21

次は研究質問2の結果を発表したいと思います。

#### Slide 22

子供を持つ事に対してプレッシャーを感じているかという質問にアメリカ人も日本人も少しはプレッシャーを感じているようですが、半分のアメリカ人は全くプレッシャーを感じていないことが分かりました。

#### Slide 23

次に、子供を持つ事へのプレッシャーが自分が子供を持つ事にどのように影響しているか調べました。その結果、半数以上のアメリカ人は子供を持つ事へのプレッシャーは自分が

子供を持つ事に対する考えに何の影響も感じていませんが、プレッシャーを感じている日本人のほとんどがプレッシャーは自分が子供を持つ事に関して良い影響を与えていると感じているようです。

#### Slide 24

次は子供を持つ事に関する意見に及ぼす要因にはどのようなものがあるのかを調べました。その結果、アメリカ人は経済的な要因が子供を持つ事に一番左右している事が分かりました。

#### Slide 25

社会、宗教、友達にはほとんど影響されないようです。

#### Slide 26

日本人の場合は家族が一番で次に大事なのは経済的な要因でした。

#### Slide 27

宗教はほとんど影響していません。

#### Slide 28

次に政府からの補助金が子供を持つ事にどのように影響を与えるかについて調べたところ日本人の約70%は影響されると答えましたが、アメリカ人はその逆で政府からの補助金は影響されないようです。

#### Slide 29

次に政府からの補助金の額がどのように子供を持つ事に影響をするかについては約半分のアメリカ人と日本人は補助金をもらわなくても、子供を持つつもりだと考えていると答えました。

#### Slide 30

子供を持つ事には保育所のことを考えなければなりません。では、公立保育所の増加に関してアメリカ人と日本人はどのように思っているのでしょうか。大半の日本人は公立保育所の増加が影響を及ぼすと考えているようですが、アメリカ人にとってはあまり関係ないようです。

#### Slide 31

それではここで、研究質問 2 の結果をまとめます。日本人は子供を持つ事にプレッシャーを感じていますが、そのプレッシャーは子供を産むことに良い影響を与えているようです。経済的な要因がアメリカ人には子供を持つさいに大事なようですが、その反面、日本人は家族からの期待に応えることが大事なようです。アメリカでは政府からの補助金で子供を産むか産まないかは左右されませんが、日本人の場合は政府からの補助金の子供を産む事にする一つの要因になっています。

#### Slide 32

結論として、安定した暮らしが出来れば、日本人は子供を持つ事に全く問題を感じていません。約 7 割のアメリカ人は子供を持ちたいという気持ちをもっているようです。しかし、「子供は絶対欲しくない」と思っているアメリカ人もいます。学生の間は子供を持つ事に関してはアメリカ人も日本人も大事ではありません。しかし、卒業後子供を持つ際一番大事なことはアメリカ人の場合は経済的に安定しているかどうかですが、日本人の場合は経済面ではなく家族からの期待に応えるための子作りになる事が分かりました。

#### Slide 33

この研究における限界点は回答者が少なかったため、ここで出た結果は一般化は出来ません。将来の研究課題として、社会人もアンケートしたいと思います。それから、時間が経つと人の優先順位がどのように変わるかも調査したいですし、男女の違う見解も比較してみたいと思います。

#### Slide 34

これが参考文献です。

#### Slide 35

そして、これが使ったメディアリソースです。

#### Slide 36

そして最後は謝辞です。アドバイザーの齋藤-アボット佳子教授と関根繁子教授がこのキヤップストーンに手伝ってくださった事に感謝しています。今年卒業する日本語専攻のクラスメート達、翻訳の手伝いをしてくださった日本人の友達、そして家族にも感謝しております。皆さんありがとうございます。